

訪問教育の紹介 Side A

「Sさんの養護学校・訪問学級での活動や支援について（本校での進路支援を含めて）」

2025年7月28日（月）（訪問学級担当・今野）

○愛とユーモアの、sさん一家

訪問教育はご家庭とのやり取りで成り立ちます。ご家族・ご家庭のあり方というのはほんとうにそれぞれです。sさんのご家族・ご家庭の場合は、愛とユーモアのsさん一家、と実感しております。sさんへの愛、sさんとのやり取りから生まれるユーモア、とっても豊かです。もうひとつ加えれば「ブルース」です。音楽でいえばブルースの似合う、ご家族・ご家庭です。四分の四拍子の、すこし哀調を帯びた、おそらくsさんをめぐって様々な奮闘や、悩みや決断や、出会いや別れをご経験してきたであろう、それらをふまえて、今日を面白おかしくsさんと過ごそうとしているのであろう、そういう基調（テイスト）があります。

○わりと押しの強い、マネージャー&執事

担任は訪問教育を愛する、sさんの母に「毅然としてsと向き合えるか」と問われて、向き合えません、と即答した教員です。No Music, No Life、生徒たちとのやり取りでは自ずと音楽性を帯びてしまいます。そして巻き込んでゆきます。今は、sさんの音楽性に、きらめき（の断片）を感受して、そこに磨きをかけ、スターの活動をしてゆこうとしています。sさんの、マネージャー兼執事と、ご家庭では呼ばれています。毅然としていないのに、あちこちから「機会」をもってきて、わりと押しが強いと言われています。※毅然とした態度というのは、私の経験や、訪問教育と一緒に担当した同僚の様子に照らしてあまりみられません。それもまた家庭で行う訪問教育の特徴かも知れません。

○「チーム、s」：キャラの盛り上がる活動や支援

訪問教育は、学校の教育と家庭での生活とが直に接触して、混ざりあって、それで特徴（キャラ）が盛り上がってきます。「チーム、s」、モットーは「八雲から世界へ」、映画を作ろう、上映会をしよう、ライブセッションをしよう、コンサートに参加しよう。愛とユーモアとブルースのsさん一家と、なんでも音楽に関連づける、毅然としていないのに押しの強い担任とで、音楽を介した活動がsさんの訪問教育のキャラになるのは必然の成り行きでした。

○なおも対話は続くー「ほんとうの願い」はどこにある？

結婚したいですか？そう問われた或るタレントさん曰く、日によりますね。なるほど。

訪問教育のなかで、とりわけ進路支援に関わっては、本人や家庭の「ほんとうの願い」をベースにしようとしします。でも、ほんとうの願いというのは、それを明らかにするのは難しいです。日によって、そのときの心情によって揺れ動きます。あるいは定評のある「選択肢」を前にしても、これじゃないんだよな、と感じてしまうことがあります。あれこれ考え始めるとだんだん分からなくなって、疲れ果ててしまうことがあります。他方できっと、日々や心情に流されない、現在可能な「選択肢」に限らない、疲れ果てても、また休んで、考えてきた、言わば「鍛えてきた願い」があると想像します。願いというのは、「はじめから、そこに在る」のではなくて、小さなきっかけを大切にしようとかこうにか「つくりあげ」てゆくものとも言えます。愛とユーモアとブルースの、sさん一家と、不肖の担任（マネージャー兼執事）とで、どんな願いをつくりあげようとしているのか。それは、じつは、一家にも、担任にも未だよく分かりません。訪問した際にはたくさん話をします。例えばお母さんの「こうしたい」と、担任の「こうしたらよいのでは」との間には、まだまだズレやギャップがあります。そのズレやギャップこそが、とても大切であるように思えます。八雲から世界へをモットーにした、ときどきわくわくする活動に取り組み、たくさん話をし、無理にまとめようとしない。高校2年生のこの時期を、あせらずかといって諦めずにすごすことで、次のトライ（活動）が明らかになると信じます。そのトライの先に、じつは自ずと鍛えられていた願いが少しずつ明らかになってゆくと思えます。

いっか
作品名「s一家のブルース」

「つくる冒険 日本のアール・ブリュット
45人」サテライト展に出品しています。



訪問教育の紹介 side B 訪問教育の概要について 【あらまし】

本日の話の中では取り上げませんが、訪問教育の概要について知っていただくには役立つかと思い裏面に掲載しました。看護学校の学生さんからの真摯な質問に応えようとしたものです。時間があるときにお読みいただければ幸いです。

訪問教育は、学校に登校して教育を受けることが難しい生徒さんについて、教員が直接家庭―あるいは病院や施設―を訪問して教育を行います。

・週3回、1回につき2時間を基本とする（北海道のガイドライン）。

・実際はいろいろです

：・在宅訪問/施設訪問/病棟訪問　・過年度卒業生の方の教育　・個別の授業/集団での授業/登校しての学習/複数授業

・遠隔地に住む子どもへの対応 ※地域の小中学校・高校、高等支援学校が訪問教育を行うことはできない

・一人一人の「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」を基にして学習を行う。

以下、一般的なテーマを設定しますので、それに応じて話をして、実際の授業場面も紹介しながら、一緒に考えていければと思います。

☆ テーマ1

学校での授業と訪問しての授業の違いはどのようなことがあるか？

↓

学校での授業は、児童生徒が学校へやって来て行われます。訪問教育では、教員が「学校」を届けます。では、「学校」を届けるとは？ といったところから少し話をしていければと思います。

☆ テーマ2

日頃からどのようなことに気を付けているのか？

↓

以前参加した研修会で、講師の方から、訪問教育は、子どもたちが「あ、また来た」と思うような授業をしましょう、などという話を聞きました。その心は？ といったところから少し話をしていければと思います。

☆ テーマ3

ふだん、家庭や病院ではなかなかできないようなことをどのように工夫して授業を行っているのか？

↓

親御さんや病院のみなさん―師長さんが窓口となることが多いように思います―と相談をして、絵本・楽器・再生プレーヤー・触れて/見て/聞いて面白そうな教材などを持って行きます。それらを介してどう工夫するのか？ といったところから少し話をしていければと思います。

もしも時間に余裕があれば・・・

訪問教育に関わる中でこの教育に長く深く携わってきた先輩たちから、あるいは親御さんから聞いて/教えてもらって、自身の糧となった言わば「訪問教育名語録」についていくつか紹介しようと思います。例えば、

・寝ている子を起こして、起きている子を笑わすんです　・この子がいなかったら会えなかった人たちがいるんだよね

・暗いひとつの世界があって、そこに子どもがいて、ずっとずっと上の方には小さい穴があって、教員はその穴からずっと奥の方にいる子どもに向かって、おーい　おーい　ここにいますぞ！　ひとりじゃないんだぞ、と呼びかけている

・No（いや！）という力　・刺激のさじ加減　・子ども半分、親御さん半分　・ていねいな主観　・偉大なマンネリ

・医療的なこととか体のケアとかそういうのは私たちがやるから、先生は、どうかこの子を笑わせて